# ためらわず救急車を呼んでほしい症状 大人

**こんな症状がみられたら、ためらわずに119番に連絡してください！**
**重大な病気やけがの可能性があります。**



## 顔

- 顔半分が動きにくい、あるいはしびれる
- ニッコリ笑うと口や顔の片方がゆがむ
- ろれつがまわりにくい、うまく話せない
- 視野がかける
- ものが突然二重に見える
- 顔色が明らかに悪い

## 頭

- 突然の激しい頭痛
- 突然の高熱
- 支えなしで立てないぐらい急にふらつく

## 胸や背中

- 突然の激痛
- 急な息切れ、呼吸困難
- 胸の中央が締め付けられるような、または圧迫されるような痛みが2～3分続く
- 痛む場所が移動する

## 手足

- 突然のしびれ
- 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる

## 腹

- 突然の激しい腹痛
- 持続する激しい腹痛
- 吐血や下血がある

## 意識の障害

- 意識がない（返事がない）又はおかしい（もうろうとしている）
- ぐったりしている



## けいれん

- けいれんが止まらない
- けいれんが止まっても、意識がもどらない



## けが・やけど

- 大量の出血を伴う外傷
- 広範囲のやけど

## 吐き気

- 冷や汗を伴うような強い吐き気

## 飲み込み

- 食べ物をのどにつまらせて、呼吸が苦しい
- 変なものを飲み込んで、意識がない



## 事故

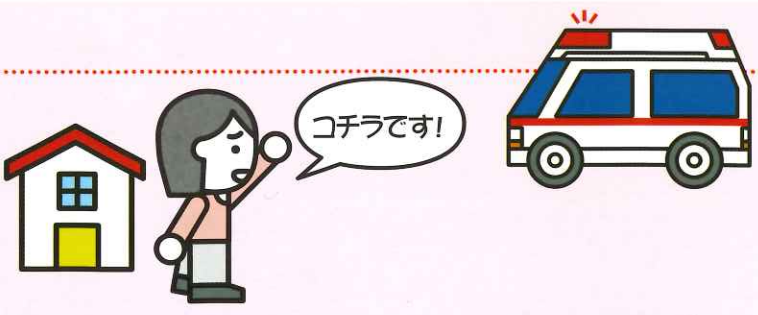
- 交通事故にあった（強い衝撃を受けた）
- 水におぼれている
- 高所から転落

**◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合**

出典：総務省消防庁「救急車を上手に使いましょう」

## ■ 救急車の呼び方

① 救急であることを伝える。
② 救急車に来てほしい住所を伝える。
③ 具合の悪い方の症状を伝える。
④ 具合の悪い方の年齢を伝える。
⑤ あなたのお名前と連絡先を伝える。



# ためらわず救急車を呼んでほしい症状 小児（15歳未満）

**こんな症状がみられたら、ためらわずに119番に連絡してください！**
**重大な病気やけがの可能性があります。**




## 意識の障害

●意識がない（返事がない）又はおかしい（もうろうとしている）

## じんましん

●虫に刺されて、全身にじんましんが出て、顔色が悪くなった



## 生まれて3カ月未満の乳児

●乳児の様子がおかしい



## けいれん

●けいれんが止まらない
●けいれんが止まっても、意識がもどらない

## やけど

●痛みのひどいやけど
●広範囲のやけど

## 飲み込み

●変なものを飲み込んで、意識がない

## 事故

●交通事故にあった（強い衝撃を受けた）
●水におぼれている
●高所から転落



**◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合**

出典：総務省消防庁「救急車を上手に使いましょう」

## ■ 救急車を呼んだら次のようなものを用意してください。

・保険証や診察券　・お金　・靴　・普段飲んでいる薬（お薬手帳）　・母子手帳　・紙おむつ　・ほ乳瓶

## ■ 救急車が来たら、こんなことを伝えてください。

① 事故や具合が悪くなった状況　② 救急隊が到着するまでの変化　③ 行った応急手当
④ 具合の悪い方の情報（持病、かかりつけの病院・クリニック、普段飲んでいる薬、医師の指示書など）

# 安心して救急医療を受診するために

## ■ 救急医療の現状

「夜間の方がすいているから」、「昼間は仕事があるから」などの理由で、**軽い症状でも、休日や夜間に、病院の救急外来を受診する**いわゆる**「コンビニ受診」が増える傾向**にあります。

▶ 休日や夜間の、病院の救急外来が**混雑**します。

▶ 命にかかわるような**重症患者への対応が遅れてしまう**ことが懸念されます。

医師やスタッフが疲弊し、**地域の救急医療体制が維持できなくなる**ことが懸念されます。




### 救急医療の適正な利用のお願い

#### ★「かかりつけ医」を持ちましょう

かかりつけのお医者さんなら、普段の体調や、家族の様子、病歴なども知っている上で、診察してもらえます。
気軽に何でも相談できる「かかりつけ医」を持ち、早めに受診しましょう。

#### ★できるだけ昼間の診療時間内に受診しましょう

昼間の診療時間内なら、医師だけでなく、看護師、放射線技師、検査技師、薬剤師など、十分な医療スタッフが揃っていますので、検査や投薬などもスムーズに受けられます。

#### ★休日夜間急患センターなどをご利用ください

休日や夜間で比較的症状の軽い方は地域の「休日夜間急患センター」や「在宅当番医」をご利用ください。
入院や手術が必要な場合には二次医療機関と連携して診療していますので、ご安心ください。

## ■ 救急搬送（救急車出動）の現状

**軽症の人が救急車を多く利用する傾向**があります。

**救急車の出動件数、搬送人員数は増加の傾向**にあります。

▶ **救急車の現場までの到着時間が遅くなります。**

▶ 命にかかわるような**重症患者への対応が遅れてしまう**ことが懸念されます。

### 救急車の適正な利用のお願い



- 症状は軽微だが、「医療機関までの交通手段がない」といった場合は、タクシーなどを利用してください。
- 「どこの医療機関に行けばよいのかわからない」といった場合は、「にいがた医療情報ネット」を活用してください。
- 意識がないとき、呼吸困難であるとき、胸が痛いとき、激しく頭が痛いとき、こんなときには迷わず、119番に通報し、救急車を要請してください。又、軽症か重症か判断できないときも迷わず救急車を呼んでください。
- 救急車や救急医療は限りある資源です。いつまでも安心して救急医療を利用できるように、みんなで上手に利用しましょう。


発行　県央地域救急医療連絡協議会

三条市医師会、加茂市医師会、燕市医師会、見附市南蒲原郡医師会、県立吉田病院、燕労災病院、三之町病院、富永草野病院、済生会三条病院、三条総合病院、県立加茂病院、燕･弥彦総合事務組合消防本部、加茂地域消防本部、三条市消防本部、三条市、加茂市、燕市、弥彦村、田上町、新潟県三条地域振興局健康福祉環境部